

アネモスガーデンだより No.4

寒かった3～4月ですが、アネモスにもついに春が来ました！シクラメン・アネモネ・カミツレ・ムスカリ・原種チューリップなどの「野の花」(キリストが“明日を思い煩うな”と譬えたガリラヤ地方に咲く花々)が咲き出しました。そして麦の穂が揃い、亜麻が咲き、ニガヨモギが萌えだし、マリヤアザミは大きな葉を広げています。

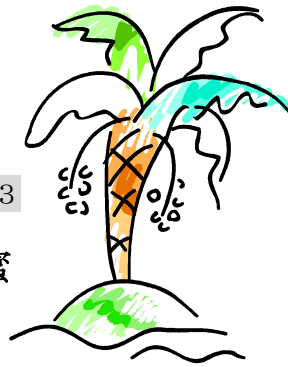
ヨナが神の声から逃げ出した後、回心し訪れたニネベの町で暑さを避けるために神がヨナのために生やして下さったという「とうごま」の種を先日撒きました。どんな風に育つか楽しみです。エジプトの墓からbc6000年以上前のものが見出され、古くから中東に自生(あるいは栽培)されていたというロマンあふれる植物です。



リニューアルしました！

枕木を使って植物の植え込みを作りました。芝生の庭と駐車場の周りに置いて、少し広くなりました。チップの小道もこれから充実させる計画です。裏側にミニ花壇もできました。

なつめやしと蜜



「大ぜいの人の群れは、、、、、シュロの木の枝を取って出迎えた。ホサナ、祝福あれ、主の御名によって来られる方に、イスラエルの王に」（ヨハネ 12：12～）

シュロもヤシ科の植物ですので「シュロの日曜日」を**パームサンデー**と言いますが、聖書にシュロと翻訳されている植物は**ナツメヤシ**のことです。

ナツメヤシと言うとピンときませんが日本にもヤシ科の植物は多く、宮崎県日南海岸のフェニックス（種名：カナリーヤシ）が有名です。これらの植物はかなり寒さに強くて東北地方の南部ぐらいまで分布しています。

フェニックスはギリシャ語では赤い色の意味です。このきれいな赤紫色の色素の染料はとても高価で、高貴な人の衣類を染めるのに使われていたという。ですからイエスのエルサレム入城の日々に人々がこの様な木の葉を振って迎えたのもうなずけます。

ナツメヤシの果実は**デート**と言って生食できます。乾燥して保存したりジャムに加工したりケーキの上などに乗って、蜜のような大変おいしい実です。

この果実は紅海を渡ってエジプトから出したイスラエル人の食料にもなっていました。^{*1}

蜜といえば、ヤコブがエジプトへの贈り物として乳香、蜜、樹膠、没薬、くるみ、アーモンドを選んでいました。^{*2}エジブ

トでは以前から蜂蜜が生産されていたので、この蜜とはナツメヤシの果汁を煮詰めた**果蜜**とされています。「乳と蜜の流れる地」^{*3}などと希望の代名詞として引用されていてカナン地方の豊かさを表しています。さてそれでは**シュロの葉**の意味するものは何だったのでしょうか？人々が期待したのはこの世における勝利、救世主としてのイエスだったのでしょう。イスラエルの人々はただ表面的に救世主の名を聞いて付和雷同にシュロの枝を振ったのでしょう。そして次に、自分たちの現世的な期待とは違うとわかったので“イエスを十字架につけろ！”と叫ぶ群衆に変わったのでした。これは単にエルサレムの出来事ではありません、私たち自身の中にこのような素質があって、自己中心な人間の姿をみることができます。ですから、キリストの十字架による贖罪が必要だったのです。

<参考>*1 出エジプト 15:27

*2 創世記 43:11

*3 出エジプト 3:8

～訂正とお詫び～

前号の（オリーブの調理法として）は「加熱する調理方法として」、（このカスをさらに2～3回搾ったものが）は「その一番搾りが」が正しい内容です。読者の皆さんが疑問に思われたらどうぞ質問してください。 文/高野富男

2010年5月発行 / 発行者 武間 和美

〒259-0151 神奈川県中井町井ノ口 2830-4

友愛キリスト教会 聖書植物園アネモスガーデン

Tel/fax: (0465) 81-8376

Email:

